

# 教育学部附属特別支援学校

## 組織の目的と特徴

### (1) 組織の目的

本校は、国立大学法人熊本大学教育学部の附属として設置された学校であり、公立学校と同様に教育基本法や学校教育法に基づく初等普通教育を行うとともに、次の使命をもっている。

- (1) 教育理論及び教育の実際に関する研究並びにその科学的実証を行う。  
大学や公立学校、他の附属学校、諸研究機関との連携を図り、教育の理論的・実証的研究を行うため、本校独自の教育計画により教育活動を行うことがある。
- (2) 教育学部学生の教育実習を実施し、その指導を行う。  
熊本大学教育学部学生を主として、教員養成を目的とした教育実習校であり、年間のべ3ヶ月にわたって教育実習が行われている。また、教育学部2年次生を対象とした介護体験実習を年間を通して実施している。
- (3) 公立学校への教育協力と情報提供を行う。  
教育研究の場として、あるいは研究会の助言者、協力者として、また、研究会の事務局員や会員として、地域社会の特別支援教育の振興に寄与している。

### (2) 教育方針

本校は、知的障害のある児童生徒を対象に、教育目標として「自立と社会参加に必要な生きる力を育てる」を標榜し、一人一人の教育的ニーズに応じた、適切な指導及び必要な支援を行うとともに、一貫性のある適切な教育を行うこととしている。

また、特別支援教育におけるセンター的機能の先導的役割を担い、地域の幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校に対し特別支援教育に関する適切な支援を行うことも目的としている。

具体的学校のめざす姿は次のとおりである。

- (1)めざす学校の姿
  - ・明るい きれいな 活気ある学校
  - ・保護者や地域、大学と連携が、とれている学校
  - ・一人一人の教育的ニーズに応じた教育を行う学校
- (2)めざす子どもの姿
  - のびのび 心豊かに たくましく
- (3)めざす子どもの姿
  - ・子どもへの愛情と教育への情熱・実践
  - ・前向き、謙虚、誠実な姿勢
  - ・職員一体の協力、協調の態度

## 管理運営に関する自己評価

### 1. 自己評価の概要

#### (1) 評価基準1「管理運営の実施体制」

管理運営の実施体制については、7項目の評価項目と14の評価観点を設け自己評価を実施している。

管理体制や組織形態を明確にし、その中における業務内容も明確にして職員全員の共通理解が図れている。管理運営面でのチェック機能も確立しており、円滑な組織運営ができています。

学校教育目標、学部目標、一人一人に応じた教育的ニーズに即した個々の目標も一貫性を持ち、目標達成のための教育課程も目標実現へ向けて効果的な編成をしている。

今後、外部ニーズや外部評価をより積極的に受け入れ、より教育的ニーズ、社会的ニーズより一層応えられる、先導的な運営や教育実践を追求する。

また、障害の重度化、多様化、社会情勢の変化に対応できる危機管理体制の充実を図る。

## (2) 評価基準2「施設・設備」

施設・設備に関しては、校地、運動場、体育館、教室、作業室、合同学習室、生活訓練棟等が整備され、教育活動の中で有効活用されている。年間を通じた定期点検で安全確認を行い、除草等の作業を通して学習環境の保全と整備に努めている。バリアフリーの視点からは、スロープの設置、段差の解消、車いす対応の出入り口等改善すべき課題がある。

### 教育実習に関する自己評価

#### 1. 教育実習の目的と特徴

優れた教員の養成を図る教育実習は、より実践的な内容が重要となる。分掌部に教育実習部を設け実習生の受入計画、実習生への指導内容、実践指導、評価を全職員の共通理解のもと、質の高い教育実習の実施を目的とする。

#### 2. 自己評価の概要

年間計画に教育実習期間を位置づけ、実習期間中の指導内容、指導観点を教育実習部を中心として明確にし教育実習生の指導にあたっている。実地授業、研究授業、授業研究会を実施し、より質の高い教員の養成の一端を担っている。

### 社会貢献に関する自己評価

#### 1. 社会貢献の目的と特徴

本校は、地域社会のニーズに応えるため分掌部に特別支援部を平成18年度に設置し、地域の要請に応じた、また、ニーズに応じた支援を行うことを目的の1つとしている。特に、特別支援教育の実施にともない、地域の幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校との連携、支援が重要となっていることから、その役割は大きい。

#### 2. 自己評価の概要

校内に特別支援部を設置し、業務を明確にしたことで、障害者、保護者、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、地域からの相談活動、研修への講師派遣等、障害児・者に関わる支援体制を広げ組織的運用ができるようになった。しかし、支援件数の増加や多様化に伴い、人的な不足や職員の専門性の向上の課題がある。

### 介護等体験に関する自己評価

#### 1. 介護等体験の目的と特徴

教員免許状取得にともない必修とされている介護等体験は、奉仕の心の育成と教員を目指す学生にとっては、実地研修の意図を含んでいる。体験を通して得る教員としての姿勢を育成することが重要である。

#### 2. 自己評価の概要

教員免許状取得のため、必修となっている介護等体験の充実を図るため、計画的に指導を進めている。奉仕の心の育成と実地研修の場という位置づけを明確にして、全職員共通理解のもと実施している。